

子どもに寄り添う

—連携の重要性—

Snuggling up to a Child : Importance of the Cooperation

佐藤 実芳 (Miyoshi SATO)

はじめに

人は家族や周囲の人々に見守られ寄り添われて成長していく。見守り寄り添ってくれる人が多いほど安心して毎日を過ごすことができる。以前の日本では、地域全体で子育てをしているという雰囲気があったが、現在、地域社会の繋がりが希薄化して社会の教育力が低下している。同様に、核家族化の進行や共働き家庭の増加などにより、家庭の教育力も低下している。また、子ども達自身、特別な支援を必要とするケースが増加している。

2006年12月に改正された教育基本法では、家庭教育（第10条）、幼児期の教育（第11条）、学校、家庭、地域住民等の相互の連携協力（第13条）に関する条文が新設された。現在の日本が直面している深刻な課題が、この3項目に集約されていると理解することができる。

宮崎県小林市は、市民一人ひとりの自己実現を目指した「0歳から100歳までの小林教育プラン」のもと、「学びたい」・「学ばせたい」気持ちを高める教育の取り組みを行っている。年齢を限定せず全ての市民を対象とした生涯学習の実現により、「自立」・「感謝」・「貢献」という循環・発展型社会づくりに取り組んでいる。その基礎となるのが、家庭での教育ともいえる。

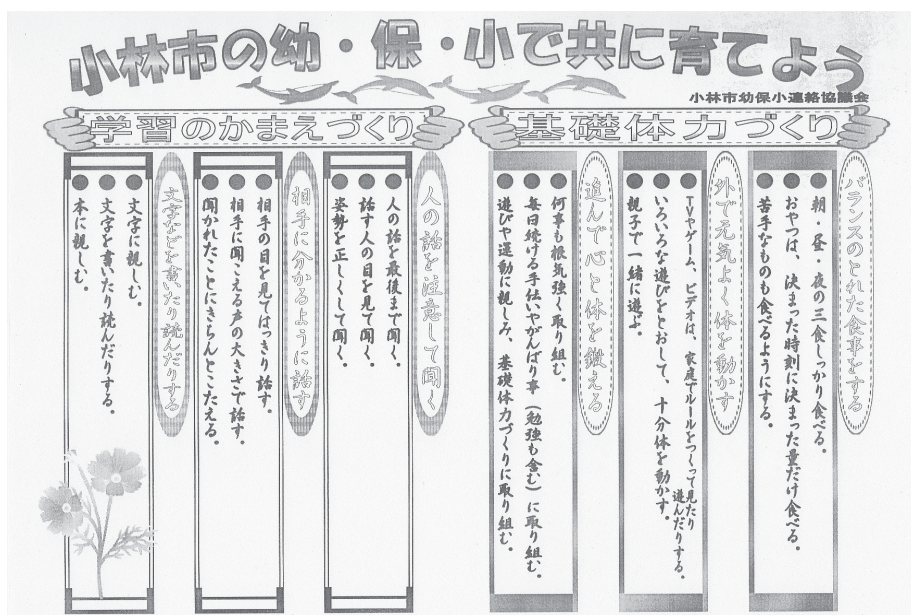
同市では、同市教育委員会学校教育課と同市役所の健康推進課及び子育て支援課が家庭教育と連携した取り組みとして、乳幼児期からの家庭での教育を支援する『ハートほんわか子育てBOOK 私のもとに生まれてきてくれてありがとう ～あなたは 私の宝物 小林の宝物～』（2016年3月作成）を3歳児及び5歳児検診の際に保護者に、『ハートほんわか子育てBOOK2 いつもそばにいてくれてありがとう～あなたは 私の宝物 小林の宝物～』（2019年1月作成）を小学校入学前の新入学児童説明会において新入生の保護者に配布している。特に後者は、保護者の不安を払拭する「保護者の教科書」としての役割を果たしている。

さらに同市では、子どもが健やかに成長することができるように、子ども一人ひとりに寄り添う教育を実践している。本稿では、1. 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携、2. 教育支援ファイル「絆」、3. 小学校入学に際しての就学相談会、4. 小学校と放課後児童クラブとの連携について検討し、子どもに寄り添うということの意味を考察する。

1. 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携

小林市における幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携は、2007年度に創設された

同協議会では、「幼保小²⁾で共に育てよう」というスローガンのもと、「基本的な生活習慣」、「基礎体力づくり」、「学習のかまえづくり」を推進している。更に小学校生活の「学習のかまえづくり」として、小学校に入学するまでに子ども達が達成すべき目標が定められている。



— 46 —

小学校入学までの目標

学習のかまえづくり		入学までの目標
人の話を注意して聞く	人の話を最後まで聞く	話が終わるまで、自分の席から離れないようにしましょう。
	話す人の目を見て聞く	おへそを話す人に向けて聞くようにしましょう。
	姿勢を正しくして聞く	両足を床につけて話を聞きましょう。
相手に分かるように話す	相手の目を見てはっきり話す	話が終わるまで相手の目を見て話しましょう。
	相手に聞こえる声の大きさと話す	時と場に応じた声の大きさと話しましょう。
	聞かれたことにきちんとこたえる	単語で答えるのではなく、自分の気持ちを伝えるように頑張ってみましょう。
文字などを書いたり読んだりする	文字に親しむ	ひらがなを読めるように頑張ってみましょう。
	文字を書いたり読んだりする	自分の名前を書いたり、読んだりできるように頑張ってみましょう。
	本に親しむ	自分のお気に入りの本を見つけ、親子で本を読みましょう。

小林市教育委員会提供

同協議会では、幼保小で共に育てる具体的事項に関して、幼保園（所）の年長児と小学校の1年生の状況を把握するために、アンケートを実施している。調査の対象は、市内幼保園（所）の年長児の保護者と担当職員、市内小学校1年生の保護者と担任教員で、毎年11月に実施されている。このアンケート結果は、幼保園（所）と小学校との認識の違いや保護者と学級担任との認識の違い、昨年度までの比較など様々な視点から分析されて公表される。その結果に基づき、年度末までの幼保園（所）での保育及び小学校での教育で、達成状況に応じた指導が行われる。また、アンケートの結果は翌年度の幼保園（所）の保育と小学校1年生の教育でも活用されている。

2021年度までは、前年度のアンケートの結果に基づき、重点項目として2項目が同協議会で統一して定められていた。2022年度からの新たな取り組みとして、統一された重点項目を1項目に減らして、各小学校区で個別に重点項目を1項目設定することにした。例えば南小学校区の場合、同協議会統一の重点項目が「自分で使ったものは自分で片付ける」で、校区別の目標を「話す人の目を見て聞く」にした。重点項目は、前年度のアンケート結果から、達成状況

2022 年度のアンケートの結果

幼保小一貫目標の昨年度との比較

幼保小連携「具体的指導事項」に関する子どもの状況把握（令和4年12月実施）
「とってもよい」「まあまあできる」と回答した割合（％）

▲：昨年度よりも上がった項目 ▲「まだできない」と回答した割合が7%以上の項目

基本的な生活習慣	88 ▲
あいさつと「はい」の返事が進んで言える	94 ▲
・「はい」「いただきます」「ごちそうさまでした」が、しっかり言える。	96 ▲
・「ごめんなさい」「ありがとうございました」が、素直に言える。	93 ▲
・「おはようございます」「こんにちわ」「さようなら」が、元気よく言える。	93 ▲
早寝早起き朝ごはんをまもる	93 ▲
・午後8時～午後10時までには就寝する。	92 ▲
・決まった時刻には起床する。	90 ▲
・朝ごはんはバランスよく、毎日しっかり食べる。	97 ▲
自分でできることは自分でする ※重点指導項目	78 ▲
・朝の身支度（起床・歯磨き・着替え等）は自分でする。	86 ▲
・園や学校への準備物は、自分で用意する。	69 ▲▲
・自分で使ったもの（くつや遊び道具等）は自分で片付ける。	78
学習のかまえづくり	83 ▲
人の話を注意して聞く	79
・人の話を最後まで聞く。	79
・話す人の目を見て聞く。	81
・姿勢を正しくして聞く。	76
相手に分かるように話す	86 ▲
・相手の目を見てはっきり話す。	82 ▲
・相手に聞こえる声の大きさと話す。	88 ▲
・聞かれたことにきちんとこたえる。	86
文字などを書いたり読んだりする	84 ▲
・文字に親しむ。	88
・文字を書いたり読んだりする。	85
・本に親しむ。	77

基礎体力づくり	81
バランスのとれた食事をする	83
・朝・昼・夜の三食しっかり食べる。	98 ▲
・おやつは、決まった時刻に決まった量だけ食べる。	76 ▲
・苦手なものも食べるようにする。	76
外で元気よく体を動かす	87
・TVやゲーム、ビデオは、家庭でルールをつくって見たり遊んだりする。	79
・いろいろな遊びをとおして、十分体を動かす。	93
・親子で一緒に遊ぶ。	87
進んで心と体を鍛える	73 ▲
・何事も根気強く取り組む。	80 ▲
・毎日続ける手強いやがんばり事（勉強も含む）に取り組む。	74 ▲
・遊びや運動に親しみ、基礎体力づくりに取り組む。	65 ▲▲

小林市教育委員会提供

が芳しくない項目が選ばれるが、必ずしも全小学校区で同じ状況ではない。そのため小学校区
の特色に応じたものを重点項目として選択した方が、目標として妥当であるといえる。

アンケートから、目標が達成される割合が年々高くなっていることがわかる。小学校も幼保
園（所）も、保護者会等の際に指導事項を保護者に啓発したり、お便りなどに指導事項を掲載
することで、家庭においても共通の目標をもって子どもを教育している効果が表れているとい
える。

同協議会は、幼保小が相互に研修を行い、連携を密にして相互理解を深め、幼児、児童の健
全な成長を期することを目的に、年２回の連絡協議会と研修会を開催している。

春に開催される第１回目の連絡協議会では、前年度のアンケートに基づき幼保小一貫で指導
に力を入れる「重点項目」に関する協議等と、小学校に入学した新１年生に関する小学校と幼
保園（所）との情報交換が行われる。翌年２月に開催される第２回目の連絡協議会では、11
月に実施されたアンケートの結果に基づき「重点項目」に関する取り組みについて評価し、今
後の改善策を検討すると共に、４月に小学校に入学する年長児に関する小学校と幼保園（所）
との情報交換が行われる。

小学校と幼保園（所）との交流も、生活科での交流や小学校の行事への園児の参加、幼保園
（所）の行事への児童の参加など盛んに行われている。以下が南小学校区に関する幼保小の連
携に関する資料である。

令和４年度 各小学校区（ブロック）部会における協議事項
（ 南小学校 ）ブロック

１ 南小学校区理事

代表校長 [] (南小)

代表所属長 [] (南保育園)

２ 南小学校区の主な計画（案）

- 「重点項目」 … ☆ 自分で使ったものは自分で片付ける。
☆ 話す人の目を見て聞く。

- 「幼児向け紙芝居の活用」
… 読み聞かせ、親子活動や入学説明会等での紹介 等

- 「スタートカリキュラムの内容検討」

月	日	主 な 活 動 内 容
4		▼南小「スタートカリキュラム」の実施
5	1 9	※【市教委】第１回小林市幼・保・小連絡協議会（オンライン） … 「重点項目」「紙芝居活用」「スタートカリキュラム」等に関する協議及び情報交換
	2 8	▼「重点項目」「紙芝居活用」に関する実践の開始 ○南保育園・小林乳児保育園運動会における園児・児童及び職員の交流
7	1	○南保育園及び小林乳児保育園職員の南小参観日への参加（案内）
8	期日未定	○南小職員の「保育園研修」
9	1 4	○南小運動会予行練習における児童・園児及び職員の交流（園児の参観）
	1 8	○南小運動会における児童・園児及び職員の交流
	3 0	○南小１年児童と南保育園児との交流（「昔の遊びフェスティバル」）
10	1	○南保育園・小林乳児保育園鼓笛披露会における園児・児童及び職員の交流

11	2	○南保育園及び小林乳児保育園職員の小林中学校区研究公開への参加（案内）
	6	○南小1年児童と南保育園児との交流
	8	※【市教委】小林市幼・保・小連絡協議会研修会 … 幼保小接続カリキュラムに関する研修
	9	○南小5年児童の南保育園訪問
	27	○「南小まつり」における園児・児童及び職員の交流
12		※【市教委】アンケート実施（WEBアンケート）
	9	○南保育園及び小林乳児保育園職員の前小参観日への参加（案内）
	14	○南小5年児童の南保育園訪問（「保育士体験」）
	16	○南小持久走記録会における児童・園児及び職員の交流（園児の参観）
1	期日未定	○南保育園児の小学校見学
	期日未定	○南小職員による南保育園保護者を対象とした懇話会
	31	○新入学児入学説明会（南小職員から当該保護者への説明、園児の小学校体験）
2	2	※【市教委】第2回小林市幼・保・小連絡協議会 … 「重点項目」「紙芝居活用」に関する取組状況確認、「スタートカリキュラム」に関する協議及び情報交換等
		▼「重点項目」「紙芝居活用」に関する取組の評価及び改善策等の検討 ▼研修及び協議等を踏まえた「スタートカリキュラム」の見直し
	22	○南保育園及び小林乳児保育園職員の前小参観日への参加（案内）
	期日未定	○南保育園保護者及び職員による給食参観
3	7	○南小学校区幼保小連絡会（令和5年度入学児に関する情報交換等）

小林市教育委員会提供

南小学校は同小学校区にある南保育園及び小林乳児保育園と様々な連携を行っている。特に、7月と12月と2月の両園職員の南小学校授業参観日への参加は、両園の職員が卒園児の成長を見届けることができる機会となる。また、8月に実施される南小学校教員の保育園研修では、年長児に関する情報交換が行われ、来年度に入学する予定の子どもたちを早くから理解することが可能となる。さらに3月の南小学校区幼保小連絡会では、4月に小学校に入学する年長児の幼保園（所）での成長過程や発達、指導の過程、その他特記事項などを記したものである「保育所児童保育指導要録」³⁾が、幼保園（所）から小学校に渡される。その際、保育園の年長児の保育士から小学校新1年生の担当教員に、年長児の特徴及び配慮の必要な場合等に関して直接伝えることができる。対面での情報交換により、文面だけでは理解することが難しい子どもの真の姿を小学校教員は理解することができる。

同市の場合、南小学校も含め全小学校において、入学児童に関する情報交換が幼保園（所）との間で行われている。同市の場合、2～3園の幼保園（所）の卒園児が入学してくる小学校が多いが、小林小学校は10園の幼保園（所）の卒園児が入学してくる。小林小学校の場合には、幼保園（所）別に複数回に分けて情報交換を行っている。丁寧な引き継ぎにより、小学校も入学児童の情報を的確に把握することができるため、入学式までに配慮を必要とする児童の対応策を具体的に考えることができる。例えば特別な支援を必要とする場合には、入学式前に保護者と子どもに小学校に来校してもらい、あらかじめ子どもに小学校の雰囲気に慣れてもらうなどの特別な指導も実際に行われている。

2. 教育支援ファイル「絆」

小林市には、教育支援ファイル「絆」がある。宮崎県教育委員会の「発達障がい等特別支援教育総合推進事業」において、障がいのある子どもの乳幼児期から成人期に至るまで一貫した支援方策について検討するため、小林市と延岡市がグランドモデル地域に指定され、開発されたのが「相談支援ファイル」である。小林市が開発したのが「教育支援ファイル『絆』」で、延岡市が開発したのが「さんさんリレーファイル」である。これらは、障がいや病気の有無にかかわらず、支援や配慮を必要とする子どもの情報を整理し、家族をはじめ関係機関が共通理解を持って支援を行っていくためのものである。

教育支援ファイル「絆」は子どもと保護者に寄り添いながら支援をつないでいくためのもので、子どもに関する情報を整理し積み重ねていくことで、今までどのような支援を受けてきたのか、そして現在どのような支援を必要としているのか、新たに子どもに関わる関係者に正確な情報を伝えることができるものである。教育支援ファイル「絆」を通して、医療・保健・福祉・教育・行政機関等の各関係機関が子どもの特性やニーズに関する共通の理解を持ち、相互に連携を図って子どものライフステージに寄り添った支援を行うことができるようになることを狙いとしている。教育支援ファイル「絆」（印刷物）は、小林市教育委員会学校教育課が配布しており⁴⁾、ファイルを受け取る際には、保護者が「同意書」を提出している。同ファイルは就学説明会で配布しており、幼保園（所）でも配布している。ファイルの内容は以下のとおりである。

《はじめに》

記入について

保管・使用にあたって

その他

関係機関の皆様へ（お願い）

《プロフィール》

氏名 生年月日 住所 緊急連絡先 家族構成 診断名など 手帳（療育手帳 身体障害者手帳） その他

《生育歴概要》

妊娠中の異常 出産時の異常 出生時体重（在胎 週 日、自然・帝切） 栄養（母乳・人工・混合）離乳食 首のすわり 寝返り おすわり はいはい つかまり立ち ひとり歩き 人見知り 身振りのまね 後追い 指さし 喃語（アー、ウーなど） 始語（意味のあることば） 二語文 見立て遊び 病歴 特記事項

《関係者情報》

福祉・行政（福祉課・相談支援専門員など） 機関名 電話番号 職務・担当

通園施設・放課後等デイサービスなど 機関名 電話番号 職務・担当

病院・相談機関など 機関名 電話番号 職務・担当

その他

名前（機関名） 電話番号 職務・担当

《健康に関する情報》

※子どもさんの状態であてはまることがありましたらお書きください。

体温の調整（正常 ℃） ☐要配慮（☐）

発作 有・無 発作時の状況 発作時の対応

服薬 薬アレルギー 有・無

薬の種別・名前 服用回数等

アレルギーなど

健康に関する特記事項

身体状況 身長 体重

その他

《感覚に関する情報》

※子どもさんの状態であてはまることがありましたらお書きください。

視覚 聴覚 触覚 臭覚 味覚 その他

《本人のようす（就学前）》 記入日

場面別

食事（偏食・嘔む 飲み込み はし、スプーン、ストローの使用など）

排泄（排泄の習慣 排泄の訴え トイレの使い方 手洗い 夜尿など）

着脱（ボタン ファスナー 前後 表裏 靴の左右 靴下 帽子 衣類の調節など）

清潔（歯みがき うがい・顔洗い 散髪 爪切り 身だしなみ お風呂など）

睡眠（時間 寝つき）

体力 運動（歩行 運動）

人とのかかわり（人への興味・関心 意思表示 コミュニケーションの手段・方法
ルール マナーなど）

遊び（家庭での遊び 外での遊びなど）

理解 概念（数・形・文字 ことば・絵 物への興味など）

家庭での様子 休日の過ごし方 習い事など

好きなもの 好きなこと

小学校の先生にお願いしたいこと

○季節の変わり目で気をつけてほしいこと

○行事（運動会等）で気をつけてほしいこと

《本人のようす》（就学後）

小学校（小学部）【1～3年】【4～6年】

○生活面（食事・着替え・入浴・身だしなみ等）

○興味や関心（趣味や特技）

○本人の気持ち（願い、悩み等）

○特に支援を必要とする事項

○その他

《支援計画・経過》 【就学前】【小学校1～3年】【小学校4～6年】【中学校】【高等学校】

所属 支援機関 保護者の願い 幼児・児童・生徒のよさ 興味・関心 長期目標

学年別（重点目標 主な支援の方法・内容 変容） 特に留意する事項等

《成長・支援の記録（就学前）》

日付 おもなできごと・相談したことや支援の内容 場所・担当者など

《成長・支援の記録（就学後）》

日付 おもなできごと・相談したことや支援の内容 場所・担当者など

ファイルの中の《支援計画・経過》に関しては、個別の指導計画等を代用してもよいことになっている。

特別な支援を必要としている子どもは、幼保園（所）や学校だけでなく、病院や療育施設に通っていることが多い。家庭を含め子どもに関わるすべての記録がこのファイルにまとめられているため、入学先の学校でも子どもに対して途切れずに支援を行うことができる。また、学校もこのファイルから正しい情報を得ることができるだけでなく、関連機関と連携することも可能になる。教育支援ファイル「絆」は、特別な支援を必要とする子どもだけでなく、誰でも使用することができる。病院等の他機関に通っていない子どもも使用している。

3. 小学校入学に際する就学相談会

小林市では、翌年度に小学校に就学する年長児を対象とした就学相談会が7月に開催される。小学校生活で特別な支援を必要とする可能性のある園児の保護者には、通園している幼保園（所）が同会への参加を勧めている。

相談会は就学予定の小学校で開催される。保護者と翌年入学する年長児が参加するため、就学先の小学校の特別支援学級の担当教員及び特別支援コーディネーターも、この段階から特別な配慮を必要とする来年度の入学者の情報を得ることができる。相談会では、エリアコーディネーター⁵⁾ 及び特別支援教育の専門家などが保護者から園児の状況を聞き、進路を検討する。その際、園児が通園している幼保園（所）を訪問して、幼保園（所）での園児の様子を確認したうえで、11月頃に開催される会議で就学先を決定する。10月以降に実施される就学児検診の結果に基づいて就学先を決めるのでは遅いというのが小林市の考えである。

就学相談会から始まり、関係者が通園している幼保園（所）を訪問して園児の実態を十分に把握したうえで就学先を決めることにより、子どもにとって最も適した就学先が選ばれる。とても丁寧な対応であり、一人ひとりの子どもに寄り添っている同市の姿勢をうかがうことができる。

4. 小学校と放課後児童クラブとの連携

小林市の放課後児童健全育成事業である「放課後児童クラブ」とは、仕事などで昼間保護者が不在になる家庭の小学生に、適切な遊びと生活の場を提供する場所である。小学校の授業がある日は放課後から 18 時まで、授業のない日は 8 時から 18 時まで利用することができる。

野尻小学校の場合、児童が利用しているのは野尻小学校前の専用施設である野尻放課後児童クラブ（定員 25 人）と大塚原認定こども園内にある大塚原放課後児童クラブ（定員 25 人）、そして 2023 年 4 月に新設された野尻保育園内にある野尻保育園放課後児童クラブ（定員 10 人）である。

施設の特性上、保護者が入会時に提出する誓約書⁶⁾の内容を遵守しているかどうか、児童を迎えに来る時間や様子など、家庭環境を知る手掛かりにもなるものを、放課後児童クラブでは多く把握することができる。それに対して小学校では、教員が保護者と接する機会は保護者会、授業参観日、運動会など学校行事などに限定されている。

野尻小学校では放課後児童クラブとの連絡会を開催して、放課後児童クラブでの児童の様子や共通に理解している事項、小学校と放課後児童クラブとの相互理解のあり方について確認を行っている。児童が安心安全な学校生活と放課後児童クラブでの生活を送ることができるように情報交換の場が持たれているのである。また同小学校では、放課後児童クラブでの人間関係のトラブルを学校で解決できるように指導している。

教育基本法第 13 条には「学校、家庭及び地域住民その他の関係者」の相互の連携協力が謳われている。学校と放課後児童クラブとの連携は、児童の人間関係及び家族関係を理解するうえでも極めて重要な観点である。共働き家庭の増加に伴い、放課後児童クラブを利用する児童が増加しているため、小学校と放課後児童クラブとの連携は、今後ますます重要になってくると考えられる。

終わりに

小林市では、2020 年 3 月に小林市子育て情報アプリ「こすもす」が導入された。子育てに必要な情報が集約されており、複雑で面倒な予防接種のスケジュール調整なども自動的に表示してくれる優れものである。母子手帳は紙媒体で 1 冊しか存在しないが、「こすもす」は家族（同居していない祖父母等の関係者も含む）で共有することができるのが、最大の特徴である。胎児期から、多くの人が子どもに寄り添うことができるといえる。

本稿で取り上げた幼保小の連携、教育支援ファイル「絆」、就学相談会、小学校と放課後児童クラブとの連携のいずれからも、一人ひとりの子どもに丁寧に関わり添う小林市の姿勢を理解することができる。同市の特徴は、まず一点目に教職員が直接に関係機関（幼保小及び小学校と放課後児童クラブ）と連携しているということが挙げられる。文面だけのやり取りで終わるのではなく、授業参観などで実際に子どもを見て、直接担当者が会話をし情報交換し子どもへの理解を深めている。時間と手間がかかるが、本来子どもを理解するにはいずれも不可欠なことである。

二点目は、子どもと関連している教育施設との連携がしやすくなるような工夫がなされていることである。教育支援ファイル「絆」の存在は、新しく子どもと接する人にそれまでの経緯を正確に伝える工夫の一つといえる。また、子どもに接する人に見解の相違がなく、子どもに関して共通の理解を有しているからこそ、有効な教育をすることができるといえる。

同市の教育は、子どもを大切に育てたいという思いから、様々な「絆づくり」がなされている。それを実現しているのが、教育関係者の努力と忍耐そして粘り強さである。子どもとその周囲で着実に「絆づくり」をすることにより、問題をいち早く発見することができ、結果的に早期解決へと結びつく。それは子どもたちに、生きていくうえでより多くの選択肢を与えることができ、同市が掲げる一人ひとりが自らの自己実現を目指す姿に繋がっていくと考えられる。

注

- 1) 2023 年 4 月現在同市には、市立小学校 12 校、幼稚園が 4 園、保育所が 13 園、認定こども園が 11 園ある。その他に、認可外保育施設は企業主導型保育所が 3 園、企業職員用保育所 2 園を含む 6 園がある。
- 2) 小林市幼・保・小連絡協議会は、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携を、同会会則で幼・保・小の連携と記している。また、保育所ではなく保育園（所）という表現を用いている。本稿では、固有名詞以外はこの会則に基づき幼保小及び幼保育園（所）で統一する。
- 3) 幼稚園指導要録は、学校教育法で幼稚園から就学先となる小学校へ送付が義務付けられている。保育所の場合にも、2009 年に改定・施行された保育所保育指針に「保育所からも子どもの記録を送る」ということが明記され、更に 2018 年 4 月 1 日より、保育所保育指針第 2 章において、子どもの育ちを支えるための資料として「保育所児童保育要録」を保育所から就学先となる小学校へ送付することとなった。認定こども園の場合も、2018 年 4 月 1 日より、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第 1 章において、子どもの育ちを支えるための資料として「幼保連携型認定こども園園児指導要録」を幼保連携型認定こども園から就学先となる小学校へ送付することとなった。
- 4) 教育支援ファイル「絆」は、小林市の HP 及び宮崎県の HP からダウンロードできる。

<小林市>

https://www.city.kobayashi.lg.jp/soshikikarasagasu/kyoikubugakkokyoikuka/ikuji_shochugakusei/1/943.html (2023 年 3 月 27 日取得)。

<宮崎県>

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/ky-tokubetsushien/kyoikukosodate/kyoiku/page00047.html> (2023 年 3 月 27 日取得)。

- 5) エリアコーディネーターは、特別支援学校のコーディネーター・特別支援教育推進員（教育事務所配置）の助言を生かした通常の学級における学級づくり・環境づくりへの助言や校内資源の活用方策を含めた校内支援体制への助言を行う。

- 6) 「誓約書」 <https://www.city.kobayashi.lg.jp/material/files/group/13/seiyakusyo.pdf>
(2023 年 3 月 27 日取得)。

参考資料

- 1) 小林市教育センター、＜0 歳児からの教育研究グループ テキスト班＞、0 歳児からの教育教材検討委員会（保護者用テキスト部会）『小林市 ハートほんわか子育て BOOK 私のもに生まれてきてくれてありがとう ～あなたは 私の宝物 小林の宝物～』、小林市教育委員会、2016 年 3 月。
- 2) 小林市教育研究センター、＜0 歳児からの教育研究グループ テキスト班＞、0 歳児からの教育教材検討委員会（保護者用テキスト部会）『小林市ハートほんわか子育て BOOK 2 いつもそばにいてくれてありがとう ～あなたは 私の宝物 小林の宝物～』、小林市教育委員会、2017 年 1 月。
- 3) 野尻小学校 HP 学校の様子「児童クラブ連絡会」投稿日時 2022 年 12 月 16 日
https://cms.miyazaki-c.ed.jp/1431/blogs/blog_entries/index/page:7?frame_id=63&page_id=15 (2023 年 3 月 27 日取得)。
- 4) 宮崎県 HP 「発達障がいを含む障がいのある子どもの『相談支援ファイル』」
<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/ky-tokubetsushien/kyoikukosodate/kyoiku/page00047.html> (2023 年 3 月 27 日取得)。